

国内シェアリングエコノミーに関する 意識調査 2017

25 July, 2017

PwCコンサルティング合同会社
グローバルイノベーションファクトリー

PwC 国内シェアリングエコノミーに関する意識調査 2017

調査概要

調査目的	全国の消費者のシェアリングエコノミーに対する意識の把握
調査地域、対象	国内全域の一般消費者。16歳～70代の男女
調査方法	Webによるアンケート調査
調査期間	2017年5月16日～18日
サンプル数	9,707名にスクリーニング調査を行い、うち2,000名が本調査に回答。 「シェアリングエコノミーのサービスのいずれかを知っている」と回答した1,000名（シェアリングエコノミー認知者）、「シェアリングエコノミーのサービスのいずれも知らない」と回答した1,000名（シェアリングエコノミー非認知者）の計2,000名を抽出。
主な調査内容	<ol style="list-style-type: none">1. シェアリングエコノミーについての認知、サービス利用経験、サービス利用意向2. サービスのカテゴリーごとに、利用回数、利用してよかったです点（以上、利用経験者のみ）、利用におけるメリット、懸念事項など3. シェアリングエコノミーの日本経済・社会への影響および自分自身への影響、シェアリングエコノミーについて感じること
調査主体	PwCコンサルティング合同会社 グローバルイノベーションファクトリー

「国内シェアリングエコノミーに関する意識調査 調査結果 1

＜対象＞

9,707 サンプル

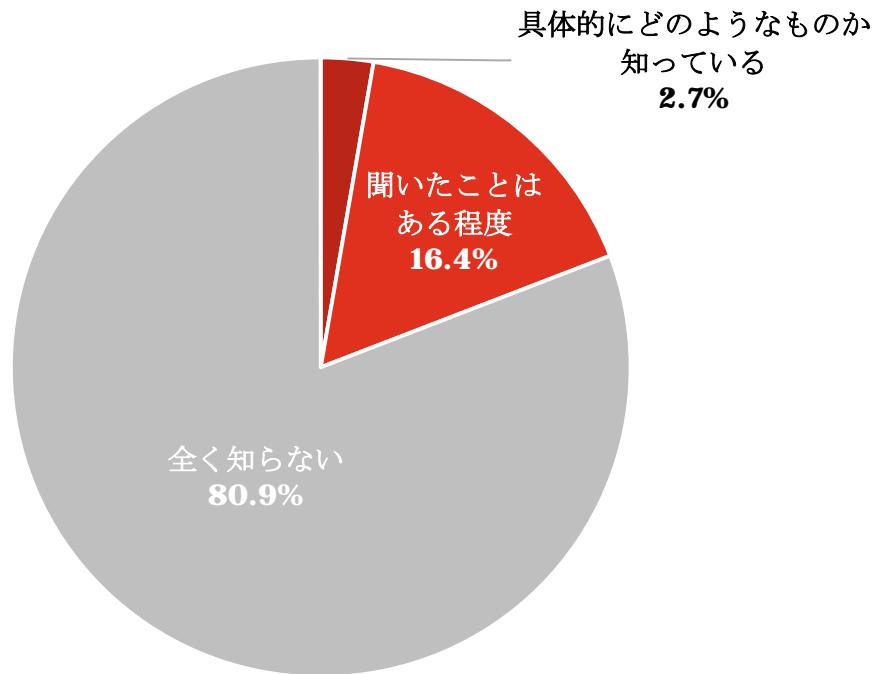
1

1-1 「シェアリングエコノミー」の認知(対象:全員)

「シェアリングエコノミー」について、「具体的にどのようなものか知っている」「聞いたことはある程度」という回答の合計は約2割。約8割は「全く知らない」と回答。

Q. あなたは「シェアリングエコノミー」についてご存知ですか。

「シェアリングエコノミー」の認知 (n=9,707)



1-2 「シェアリングエコノミーのサービス」の認知 本調査における「シェアリングエコノミー」の定義

本調査における「シェアリングエコノミー」の定義およびサービスのカテゴリーを説明した上で認知を聞くと、約3割が「いずれかのサービスを知っている」と回答（次ページ）。

「シェアリングエコノミー」とは、個人等が保有する「遊休資産」（※）を、インターネット上のプラットフォームを介して他の個人等が必要なタイミングで利用することを可能にする経済活動の総称で、海外では欧米を中心に普及してきています。また、ソーシャルメディアが有するコミュニケーション機能が活用されるのも、その特徴のひとつです。

※遊休資産：活用されていない資産。有形のものだけでなくスキルや時間など無形のものも含む

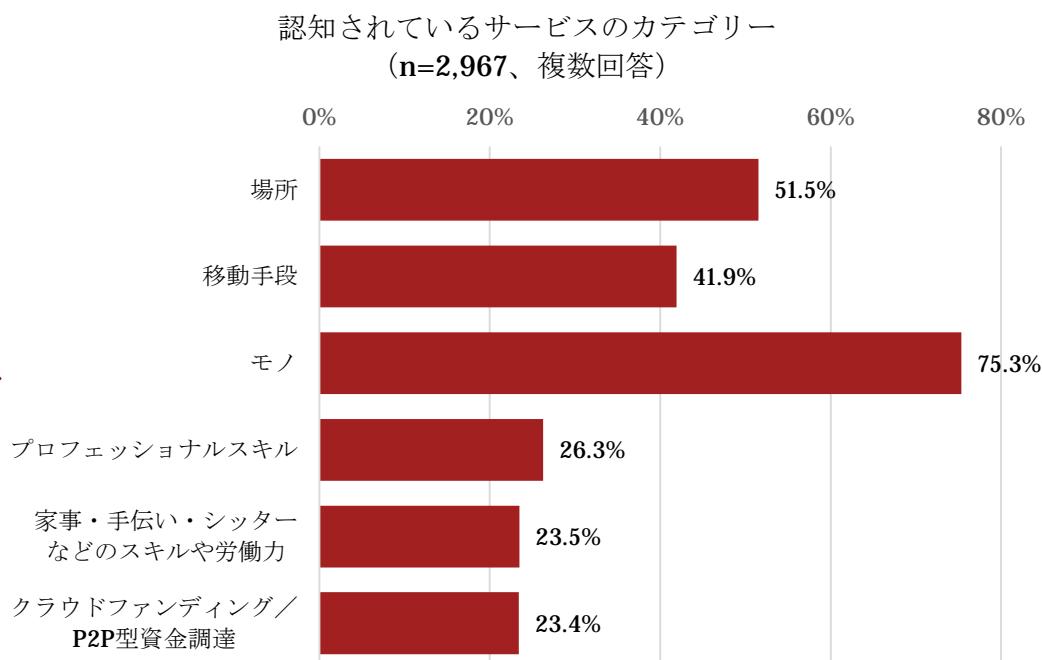
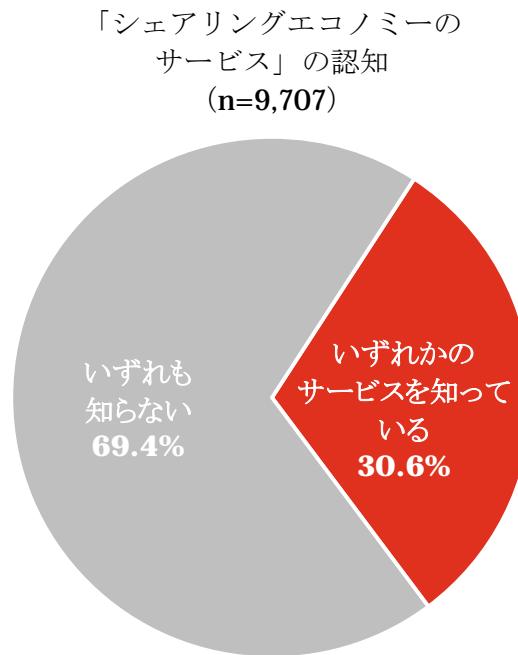
カテゴリー	内容
1. 場所	宿泊場所、会議室、駐車場など
2. 移動手段	自家用車（目的地への送迎を含むもの）、自転車など
3. モノ	家電、衣服、鞄など
4. プロフェッショナルスキル	プログラミング、翻訳、コンサルティングなど
5. 家事・手伝い・シッターなどのスキルや労働力	家事、ベビーシッター、買い物や作業など
6. クラウドファンディング	P2P型資金調達

1-2 「シェアリングエコノミーのサービス」の認知①

認知されているカテゴリー(対象:全員、シェアリングエコノミー認知者)

本調査における「シェアリングエコノミー」の定義およびサービスのカテゴリーを説明した上で認知を聞くと、約3割が「シェアリングエコノミーのサービスのいずれかを知っている」と回答。認知されているサービスのカテゴリーは、「モノ」が最多で、「場所」「移動手段」が続いた。

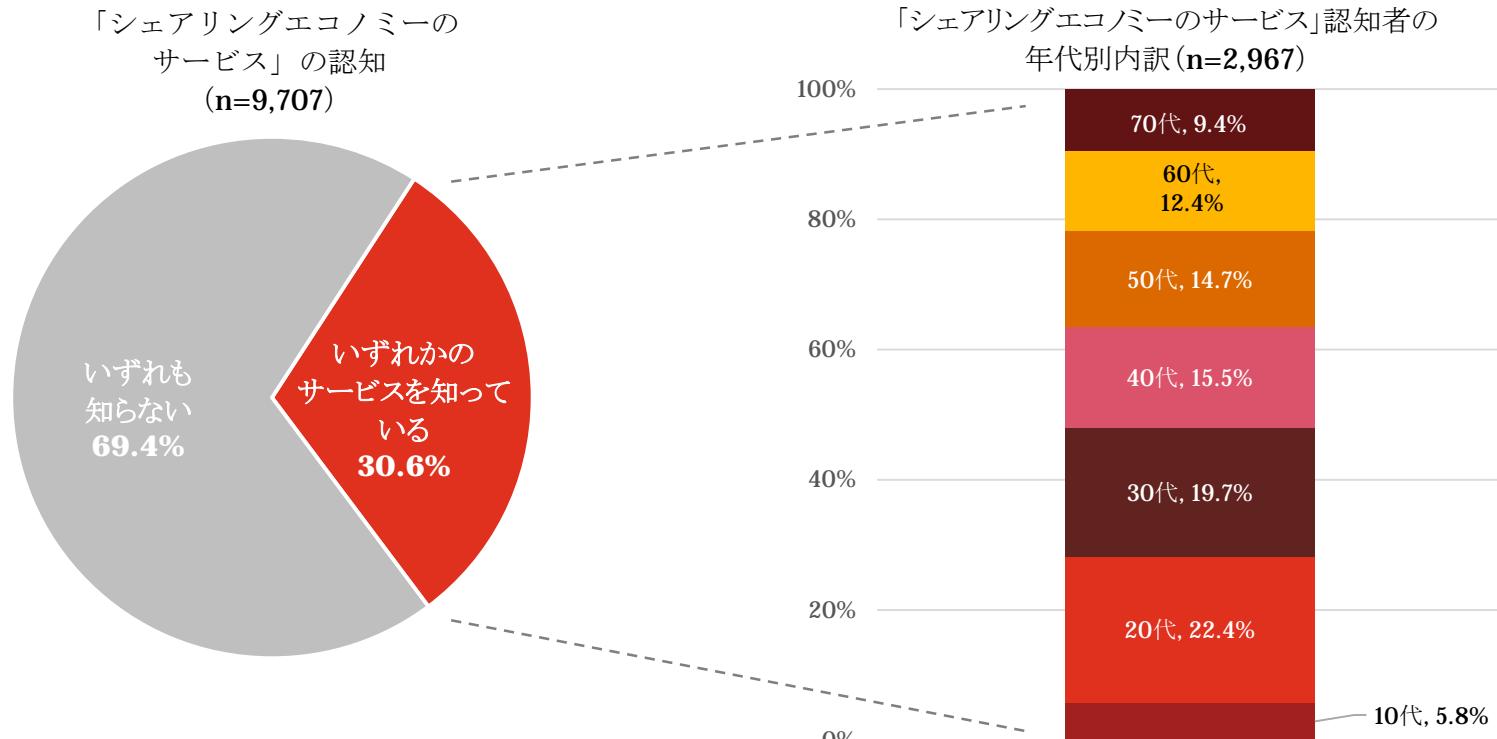
- Q. 次の「シェアリングエコノミーのサービス」の中でご存知のものをお知らせください(「場所」「移動手段」「モノ」「プロフェッショナルスキル」「家事・手伝い・シッターなどのスキルや労働力」「クラウドファンディング／P2P型資金調達」から複数回答)。



1-2 「シェアリングエコノミーのサービス」の認知② 年代別内訳(対象:全員、シェアリングエコノミー認知者)

「シェアリングエコノミーのいずれかのサービスを知っている」と回答した人の内訳をみると、**20代**が最多。

- Q. 次の「シェアリングエコノミーのサービス」の中でご存知のものをお知らせください(「場所」「移動手段」「モノ」「プロフェッショナルスキル」「家事・手伝い・シッターなどのスキルや労働力」「クラウドファンディング／P2P型資金調達」から複数回答)。

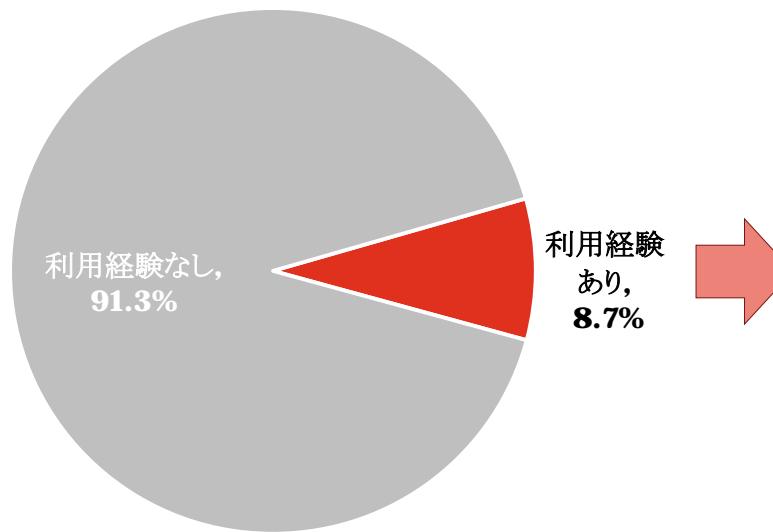


1-3 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験① 借り手・貸し手別(対象:全員、サービス利用経験者)

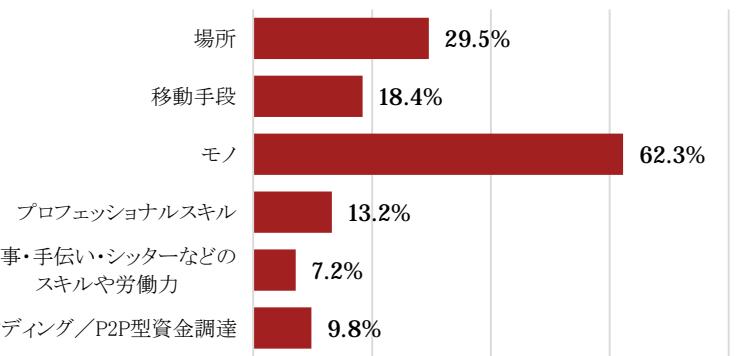
国内で「シェアリングエコノミーのサービス」のいずれかを「借り手」(サービス・製品の利用者)または「貸し手」(サービス・製品の提供者)として利用した経験があるのは、全体の約9%。いずれも、「モノ」に関わるサービスの利用が最多。

Q. 「シェアリングエコノミー」のサービスの中で、利用したことがあるものをお知らせください。海外での利用は除き、国内での利用経験のみをお知らせください(選択式複数回答)。

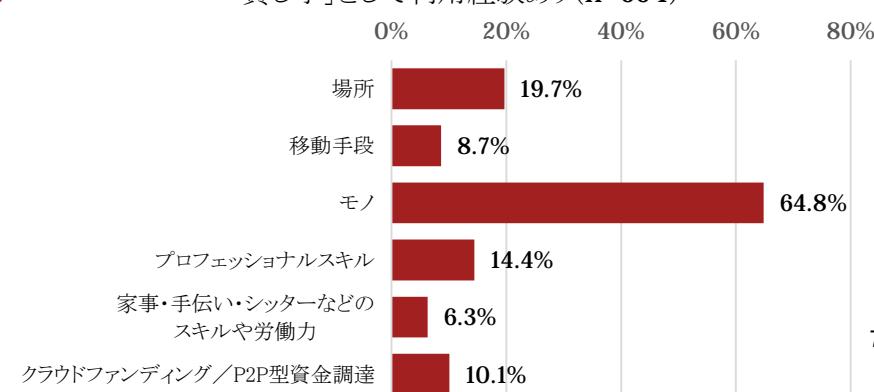
「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験
(「借り手」または「貸し手」として)(n=9,707)



「借り手」として利用経験あり(n=755)



「貸し手」として利用経験あり(n=554)

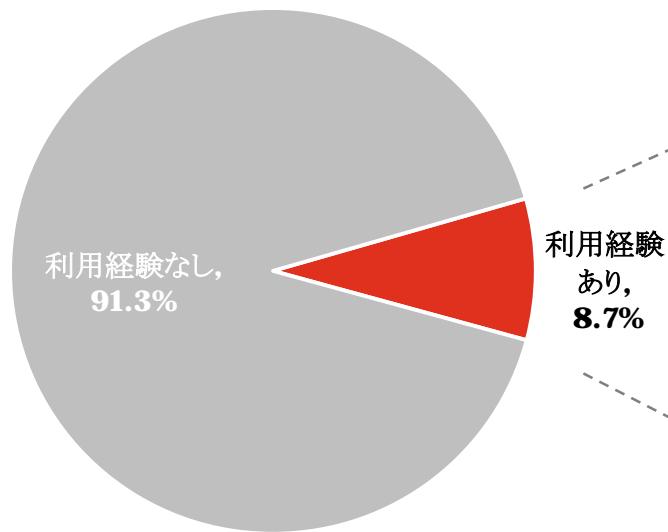


1-3 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験② 年代別(対象:全員、サービス利用経験者)

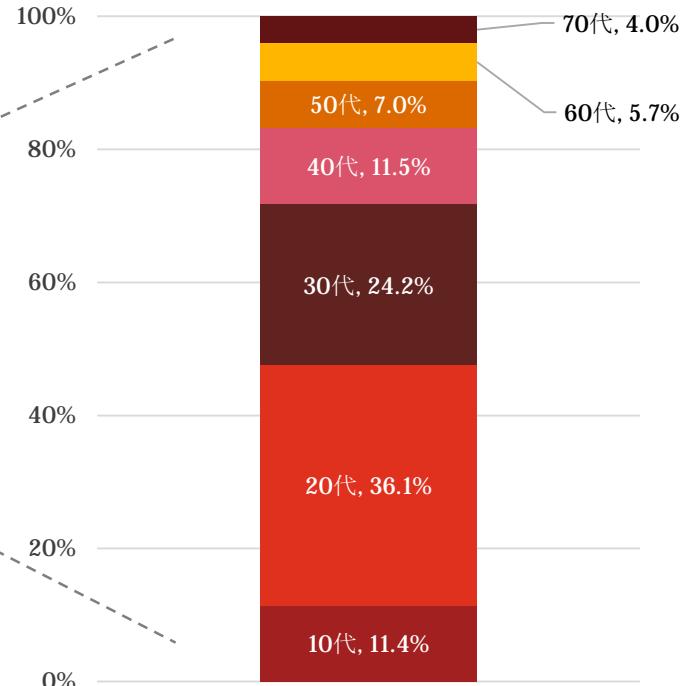
国内で「シェアリングエコノミーのサービス」のいずれかのサービスを「借り手」または「貸し手」として利用したことがある人の内訳を見ると、20代が最多。

- Q. 「シェアリングエコノミー」のサービスの中で、利用したことがあるものをお知らせください。海外での利用は除き、国内での利用経験のみをお知らせください(選択式複数回答)。

「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験
(「借り手」または「貸し手」として) (n=9,707)



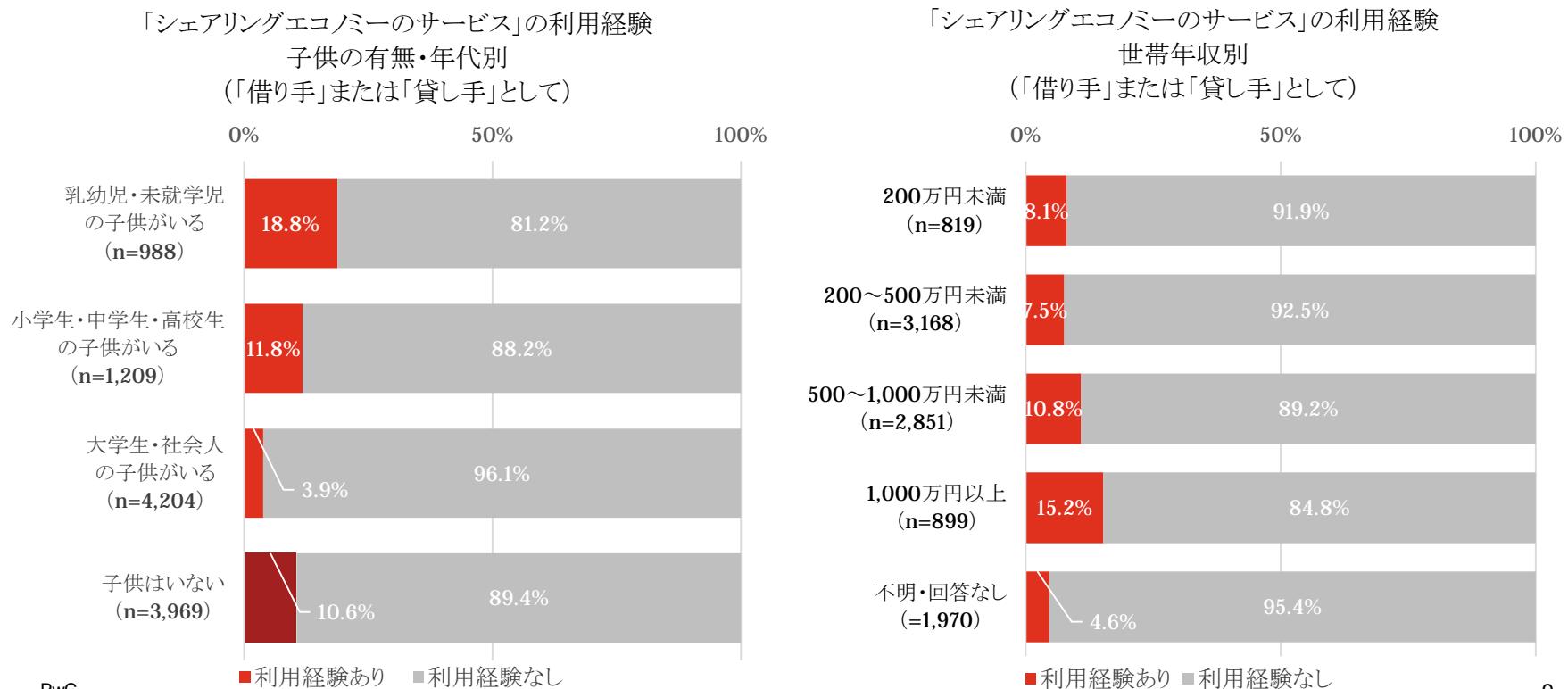
「シェアリングエコノミーのサービス」利用経験者
年代別内訳(n=842)



1-3 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験③ 子供の有無・年代、世帯年収別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」の利用経験について、子供の有無・年代別に見ると(子供が複数いる場合は複数回答)、乳幼児・未就学児の子供を持つ回答者の利用経験が多い。世帯年収別では、1,000万円以上の回答者の利用経験が多い。

- Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」の中で、利用したことがあるものをお知らせください。海外での利用は除き、国内での利用経験のみをお知らせください(複数回答)。

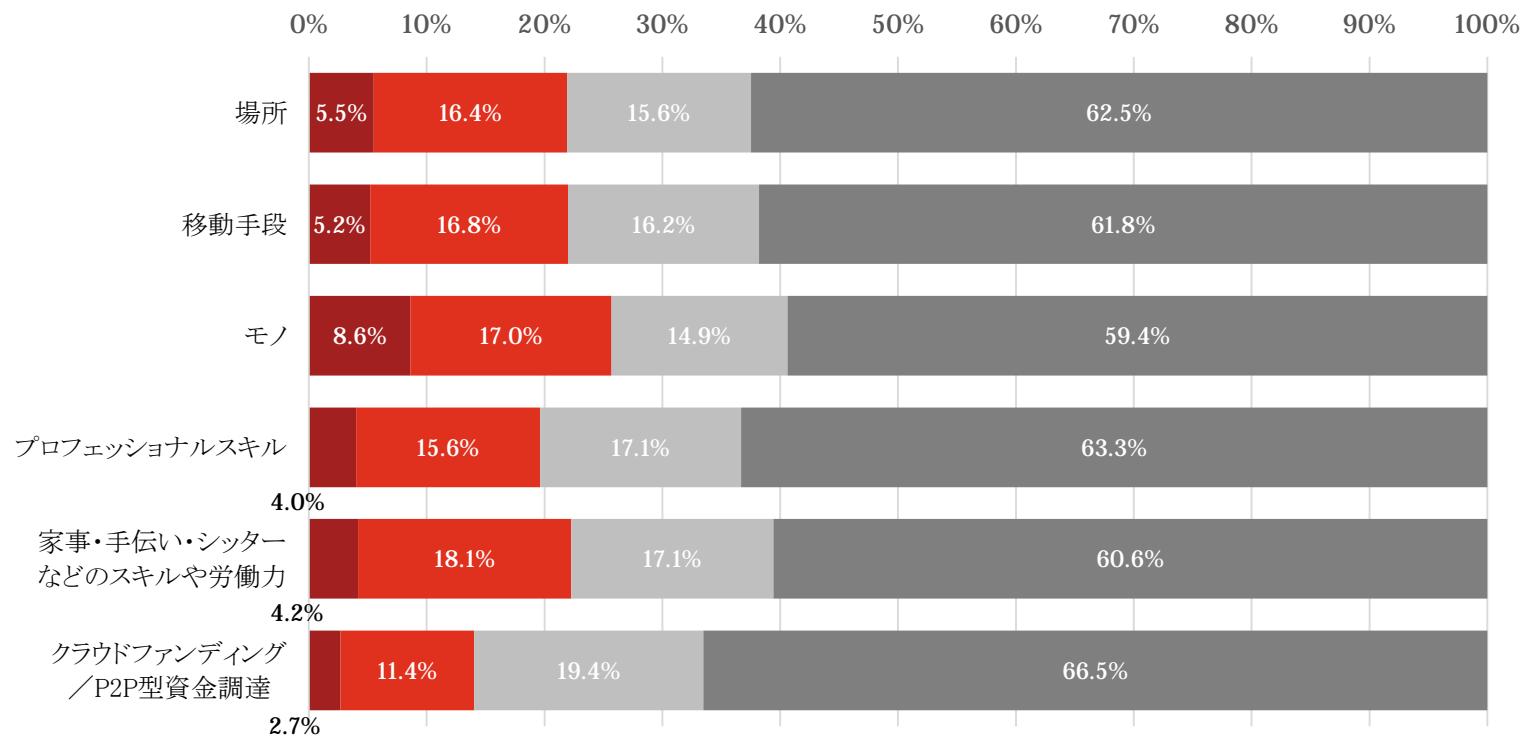


1-4 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向① カテゴリー別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」を、「借り手」として「利用したいと思う」「利用を検討してもいいと思う」の合計は、各カテゴリーにおいて約15%～25%。

Q. 「シェアリングエコノミー」のサービスを、「借り手」として利用してみたいと思いますか。

「シェアリングエコノミーのサービス」の「借り手」としての利用意向 カテゴリー別 (n=9,707)



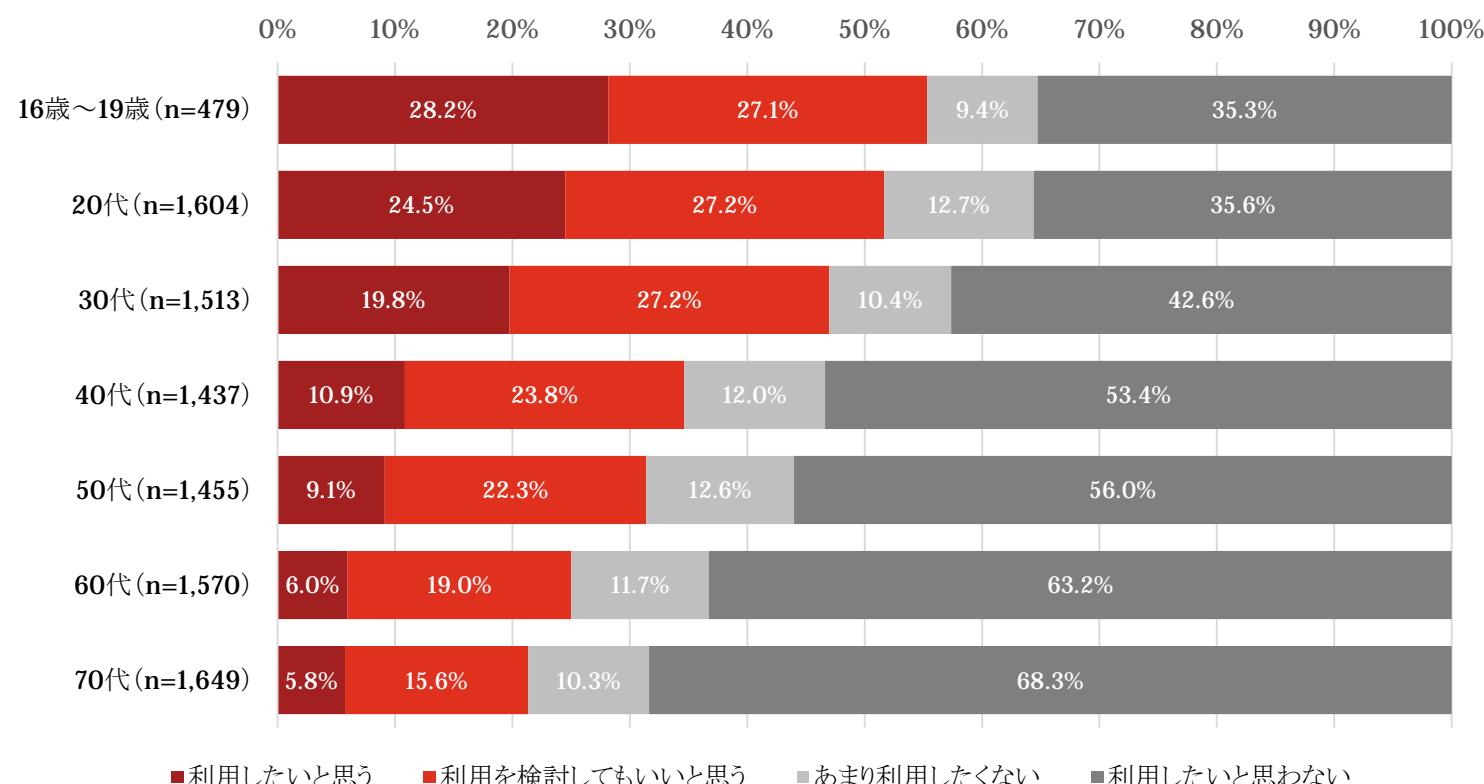
1-4 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向②

年代別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」の「借り手」としての利用意向を年代別に見ると、若年層ほど利用意向が高く、10代、20代では「利用したいと思う」「利用を検討してもいいと思う」の合計が半数を超える。

Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を、「借り手」として利用してみたいと思いますか。

「シェアリングエコノミーのサービス」の「借り手」としての利用意向 年代別

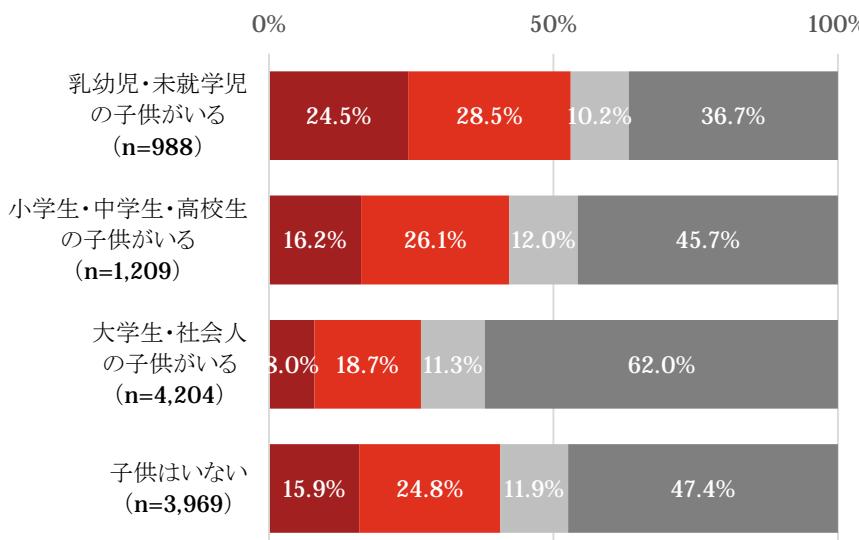


1-4 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向③ 子供の有無、世帯年収別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向について、子供の有無・年代別に見ると(子供が複数いる場合は複数回答)、乳幼児・未就学児の子供を持つ回答者の利用意向が最も高い。世帯年収別では、1,000万円以上の回答者の利用意向が最も高い。

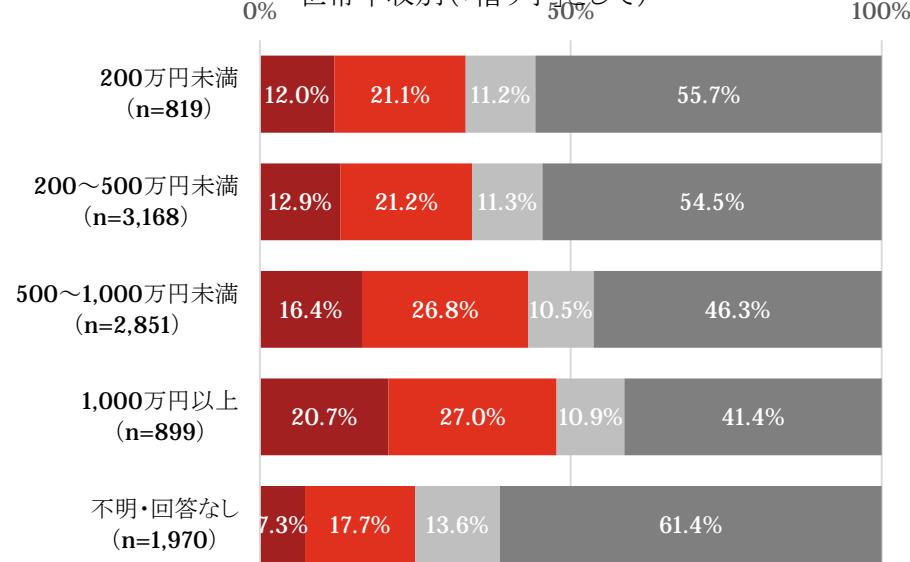
Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を、「借り手」として利用してみたいと思いますか。

「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向
子供の有無・年代別(「借り手」として)



- 利用したいと思う
- 利用を検討してもいいと思う
- あまり利用したくない
- 利用したいと思わない

「シェアリングエコノミーのサービス」の利用意向
世帯年収別(「借り手」として)



- 利用したいと思う
- 利用を検討してもいいと思う
- あまり利用したくない
- 利用したいと思わない

「国内シェアリングエコノミーに関する意識調査 調査結果 2 サービスカテゴリー別

＜対象＞

全回答から抽出した計2,000サンプル

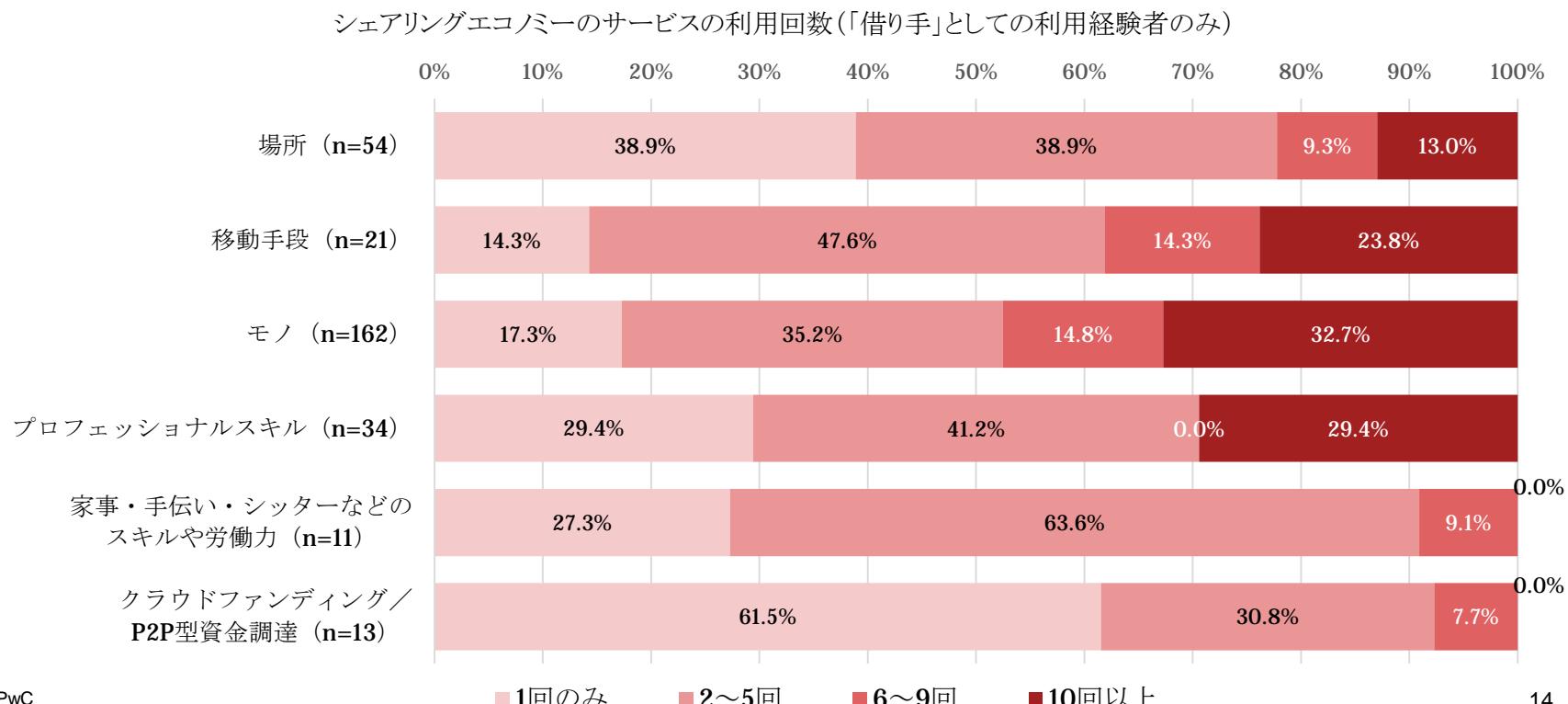
- ① シェアリングエコノミー認知者： 1,000
- ② シェアリングエコノミー非認知者： 1,000

2

2-1 「シェアリングエコノミーのサービス」の利用回数 カテゴリー別(対象:「借り手」としての利用経験者のみ)

シェアリングエコノミーのサービスの「借り手」としての利用経験者に利用回数を聞くと、「モノ」「移動手段」のサービスにおいては、8割以上が複数回の経験があると回答(国内での利用経験のみ)。

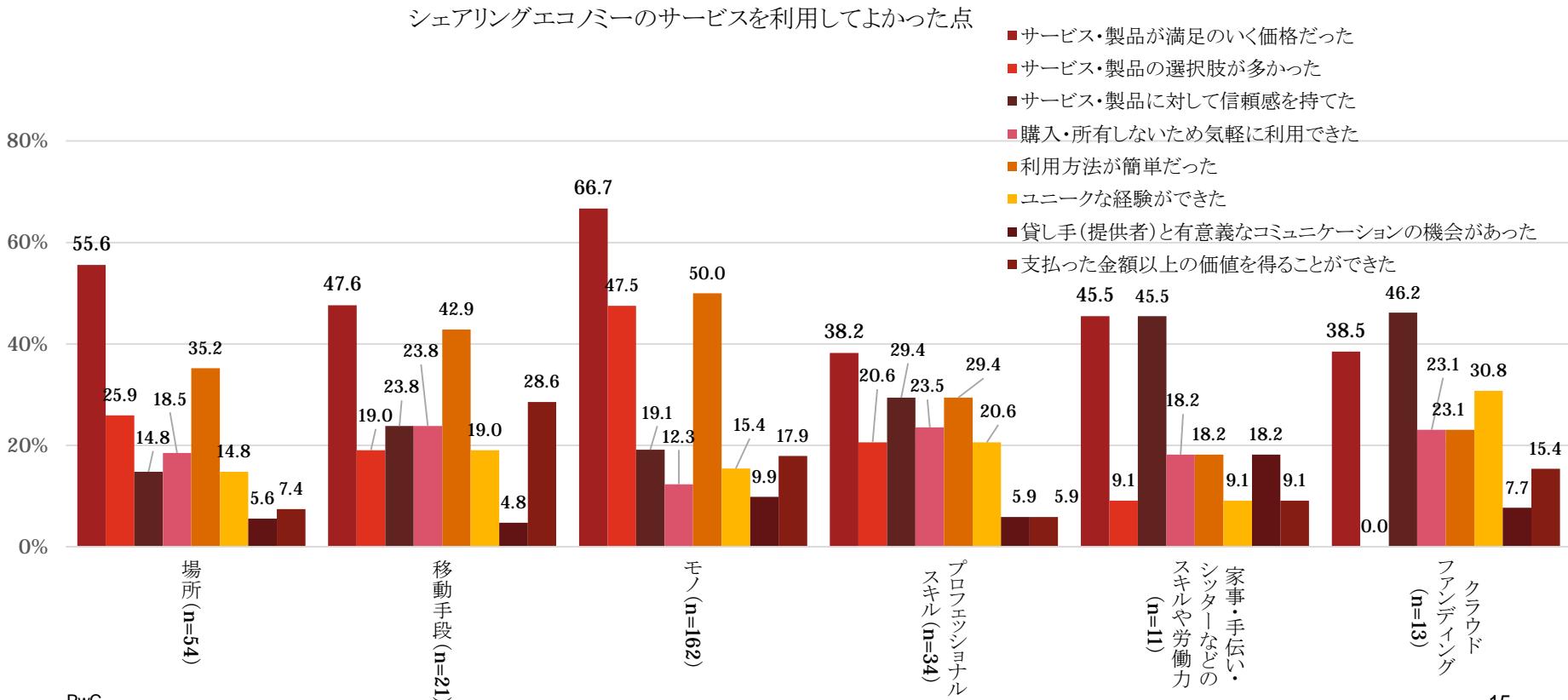
Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として今まで何回程度利用しましたか(国内のみ)。



2-2 「シェアリングエコノミーのサービス」を利用してよかつた点 カテゴリー別(対象:「借り手」としての利用経験者のみ)

シェアリングエコノミーのサービスの「借り手」としての利用経験者に、利用してよかつた点を聞くと、「場所」「移動手段」「モノ」「プロフェッショナルスキル」「家事・手伝い・シッターなどのスキルや労働力」において、「価格」が最多(国内での利用経験のみ)。

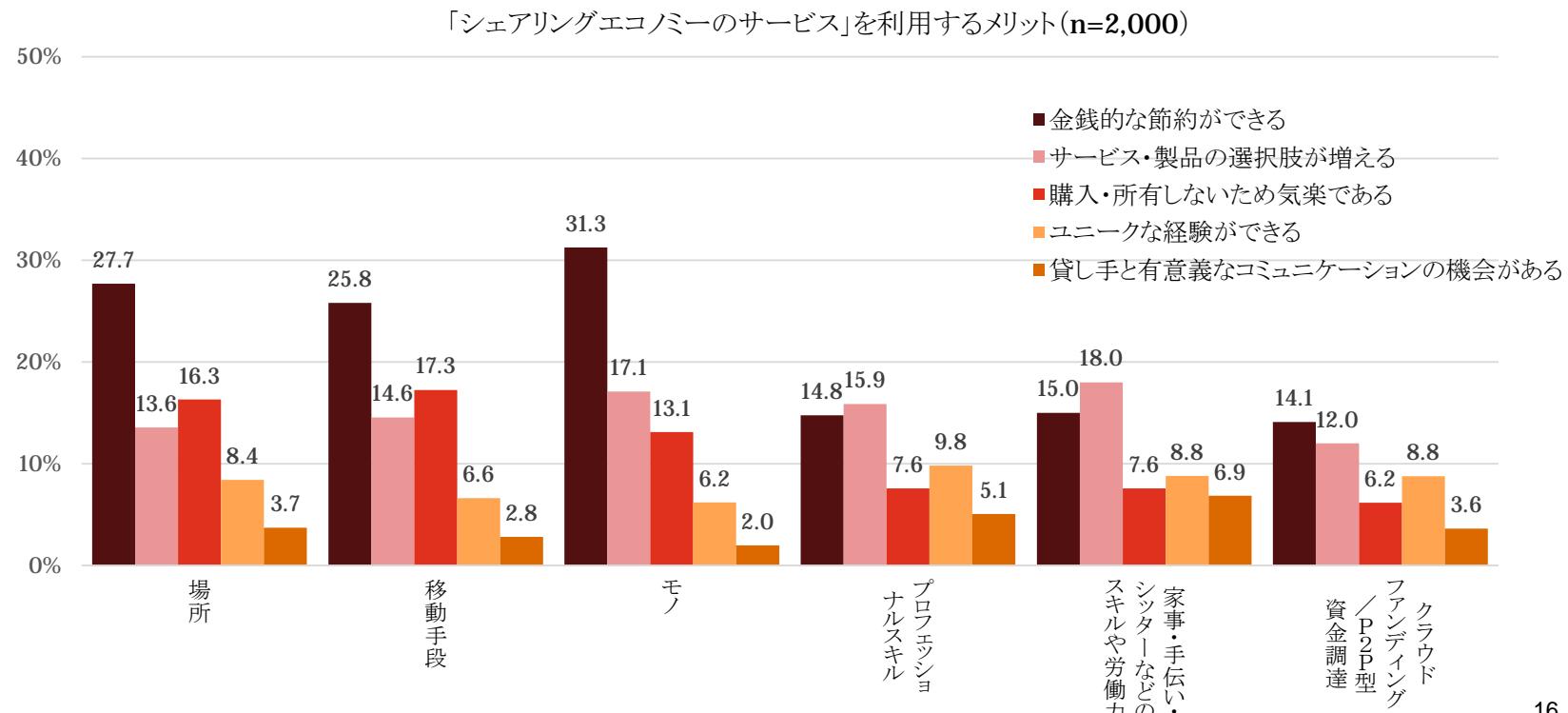
Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として利用して、よかつたと思う点をお知らせください(国内のみ)。



2-3 「シェアリングエコノミーのサービス」を利用するメリット カテゴリー別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として利用する場合のメリットについて聞くと、「場所」「移動手段」「モノ」「クラウドファンディング」においては、「金錢的な節約」が最多。

- Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として利用する場合、メリットとして考えられるものはありますか。あてはまるものをお知らせください。
利用経験のない場合は利用すると仮定してお答えください(複数回答)。



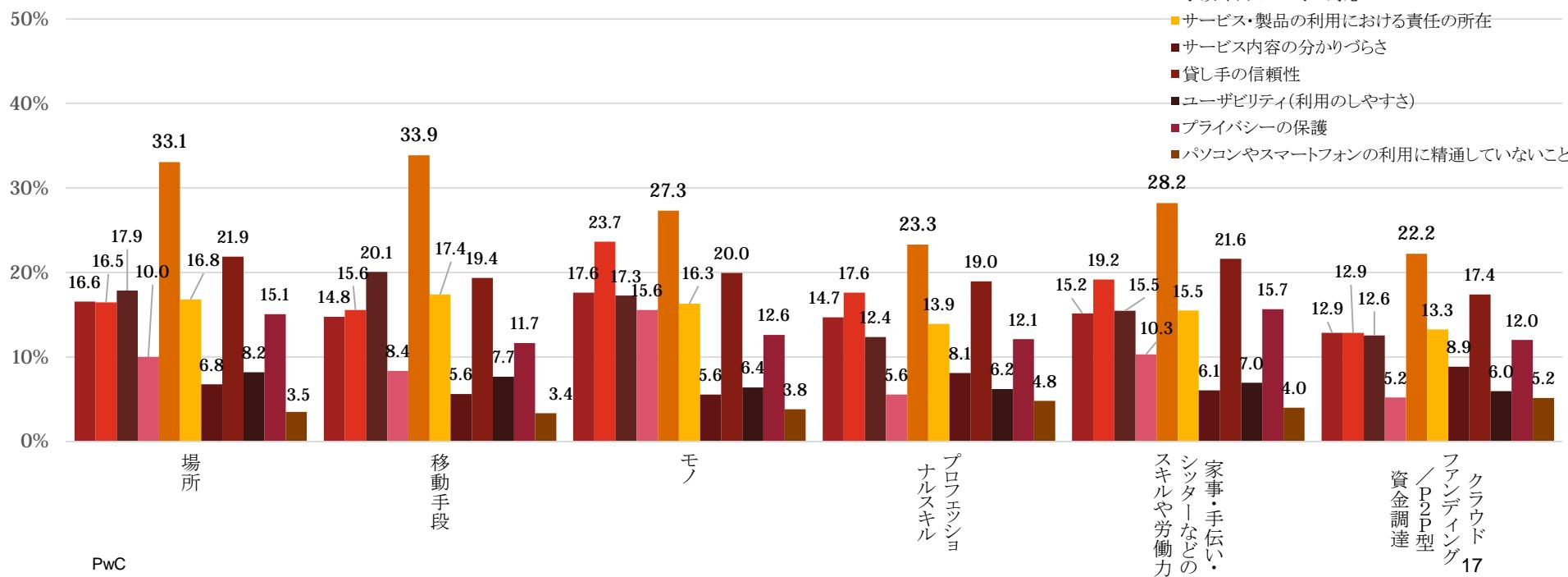
2-4 「シェアリングエコノミーのサービス」を利用する場合の懸念事項 カテゴリー別(対象:全員)

「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として利用する場合の懸念事項は、全てのカテゴリーにおいて「事故やトラブル時の対応」が最多。

Q. 「シェアリングエコノミーのサービス」を「借り手」として利用する場合、懸念事項はありますか。あてはまるものをお知らせください。利用経験のない場合は利用すると仮定してお答えください(複数回答)。

「シェアリングエコノミーのサービス」を
「借り手」として利用する場合の懸念事項
(n=2,000)

- サービス・製品の価格
- サービス・製品の質
- サービス・製品の安全面
- サービス・製品の衛生面
- 事故やトラブル時の対応
- サービス・製品の利用における責任の所在
- サービス内容の分かりづらさ
- 貸し手の信頼性
- ユーザビリティ(利用のしやすさ)
- プライバシーの保護
- パソコンやスマートフォンの利用に精通していないこと



国内シェアリングエコノミーに関する意識調査 調査結果 3

＜対象＞

全回答から抽出した計2,000サンプル

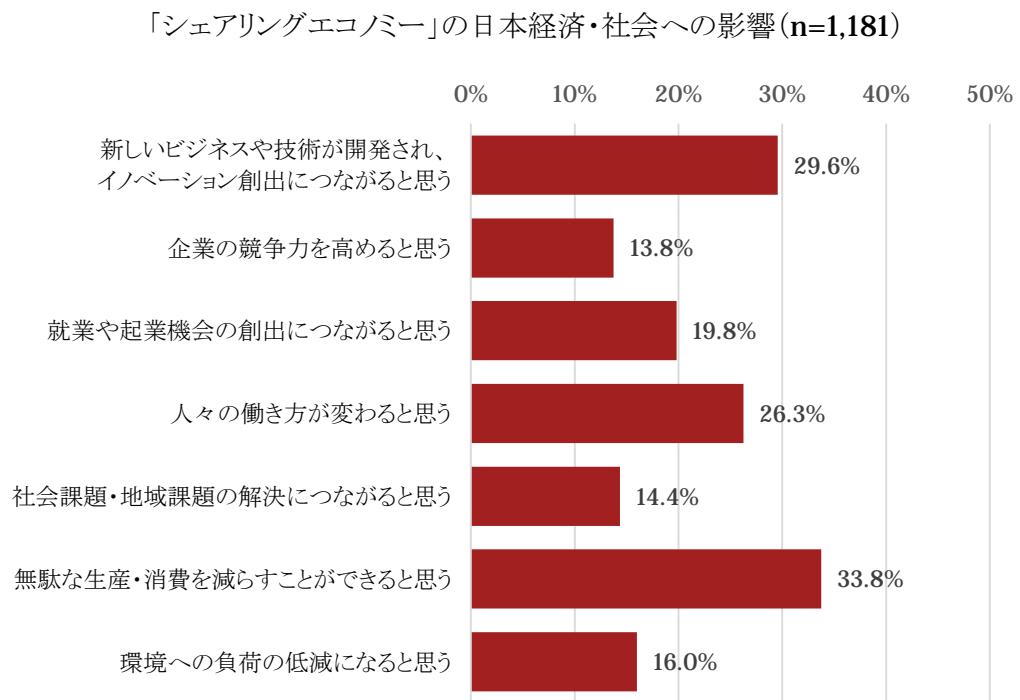
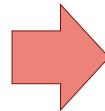
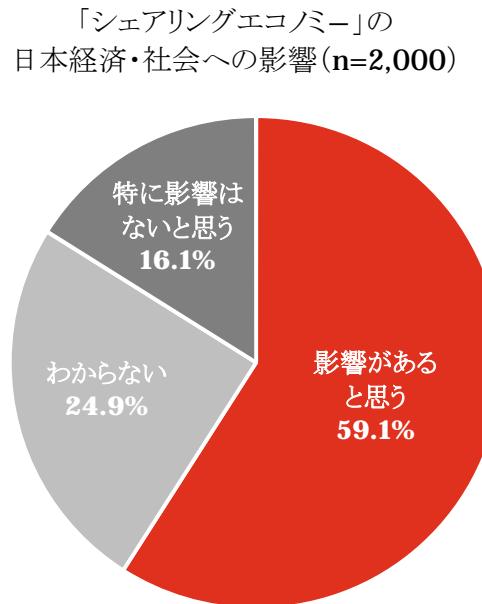
- ① シェアリングエコノミー認知者： 1,000
- ② シェアリングエコノミー非認知者： 1,000

3

3-1 「シェアリングエコノミー」が日本経済・社会に与える影響① (対象:全員)

約6割の回答者が「シェアリングエコノミーの発展は日本経済・社会に影響がある」と認識。「影響があると思う」とした人の回答内容は、多い順に「無駄な生産・消費を減らすことができる」「新しいビジネスや技術が開発され、イノベーション創出につながる」「人々の働き方が変わる」。

Q. 「シェアリングエコノミー」の発展が日本経済・社会に与える影響はあると思いますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

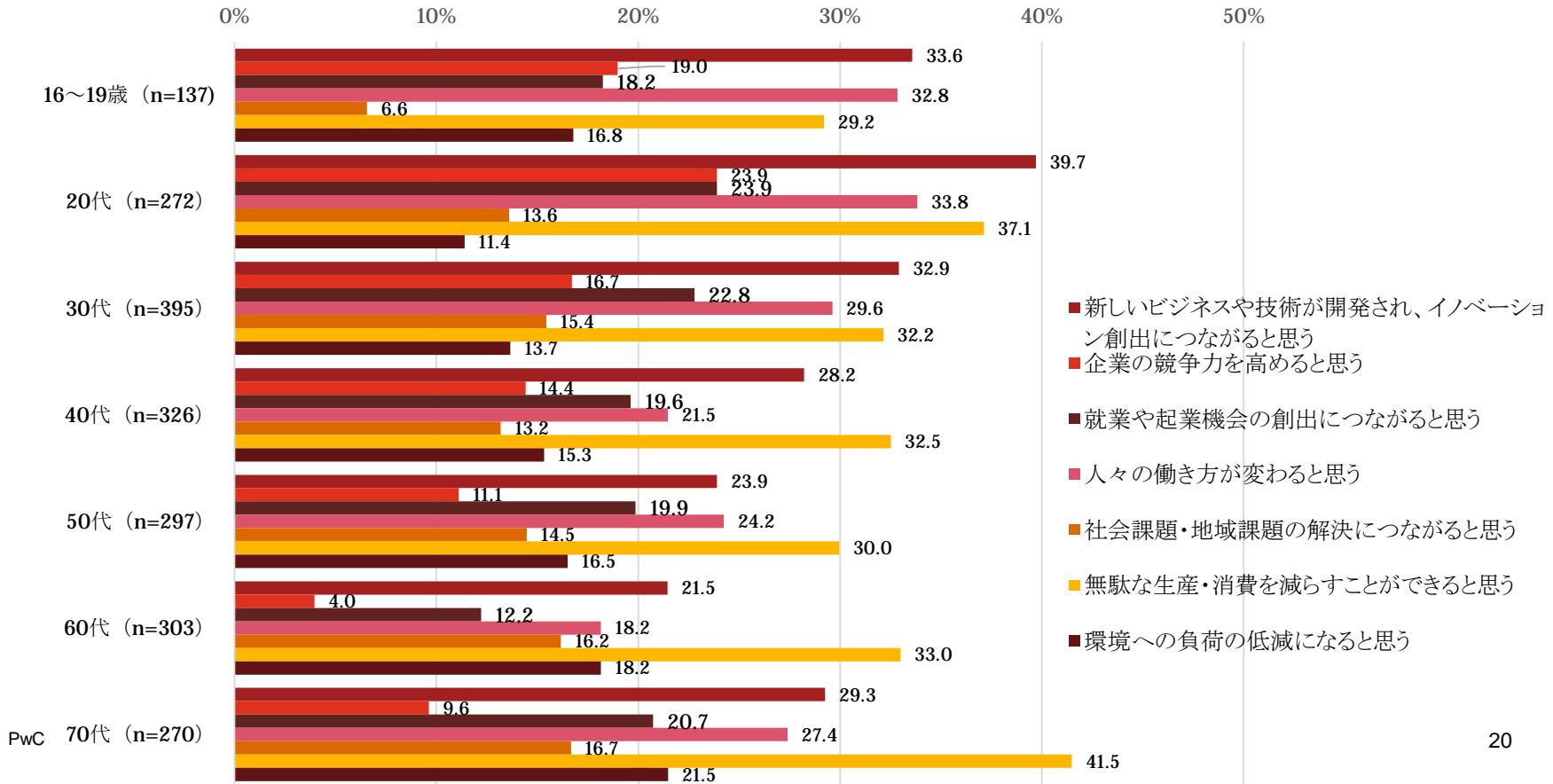


3-1 「シェアリングエコノミー」が日本経済・社会に与える影響② 年代別(対象:全員)

「シェアリングエコノミー」の発展が日本経済・社会に与える影響として、若年層はビジネスの側面での影響を認識。一方、「無駄な生産・消費の低減」は全年代を通じて認識されており、70代が最多。

Q. 「シェアリングエコノミー」の発展が日本経済・社会に与える影響はあると思いますか。あてはまるものをお知らせください。

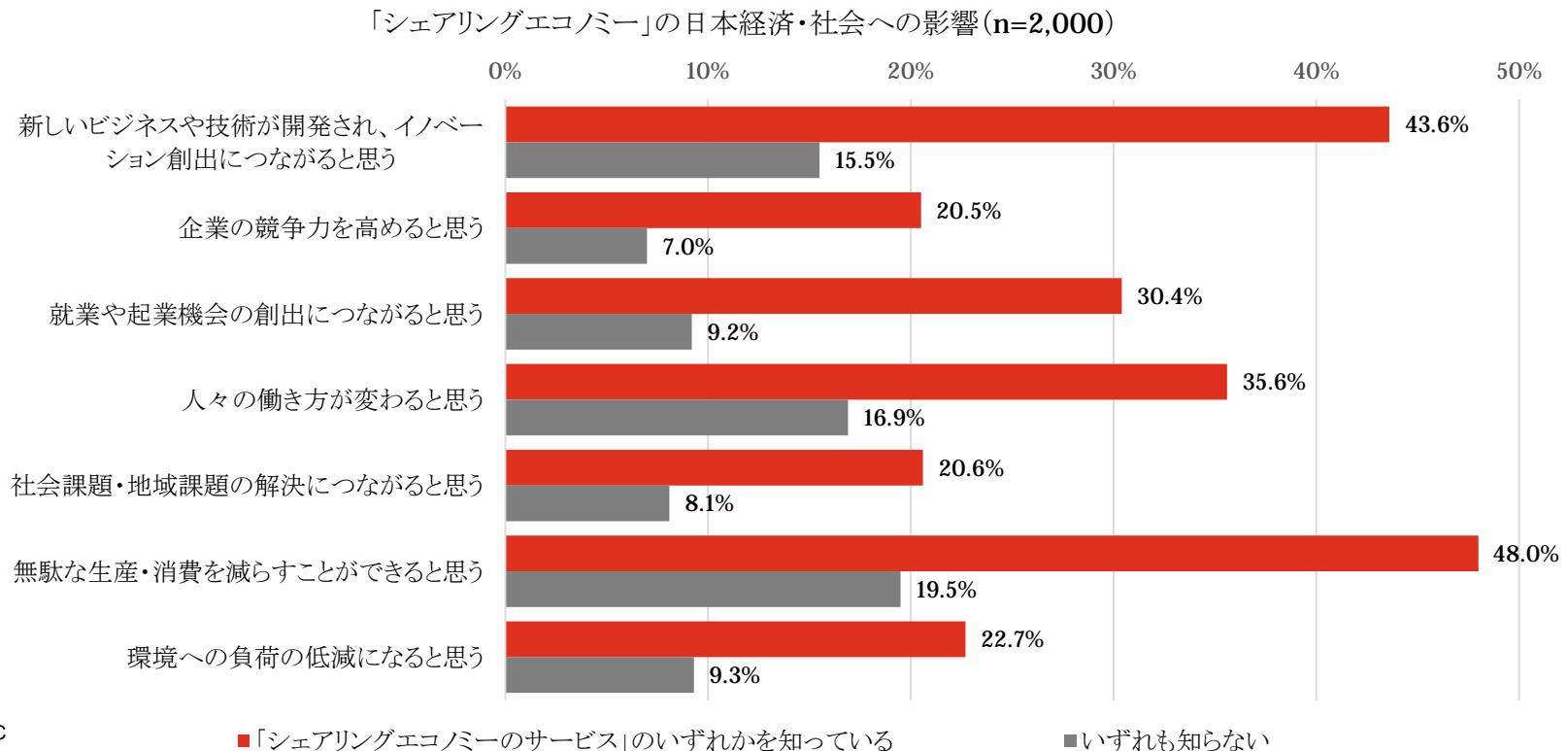
「シェアリングエコノミー」の日本経済・社会への影響(n=2,000)



3-1 「シェアリングエコノミー」が日本経済・社会に与える影響③ シェアリングエコノミー認知者・非認知者別(対象:全員)

「シェアリングエコノミー」の認知者は、非認知者よりも「シェアリングエコノミー」の発展による日本経済・社会への影響を認識。

Q. 「シェアリングエコノミー」の発展が日本経済・社会に与える影響はあると思いますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

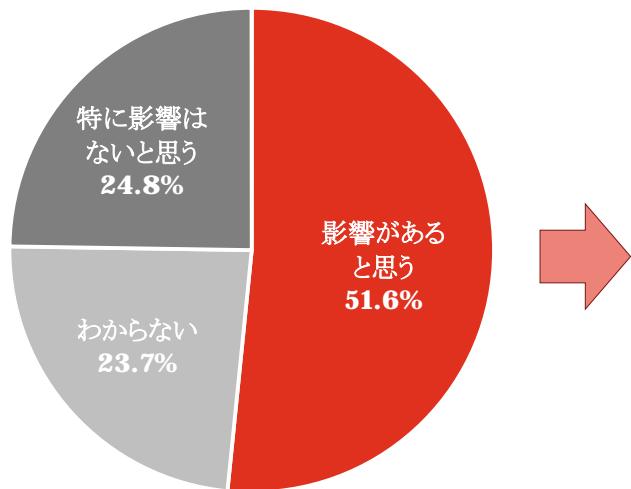


3-2 「シェアリングエコノミー」の発展が自分自身に与える影響① (対象:全員)

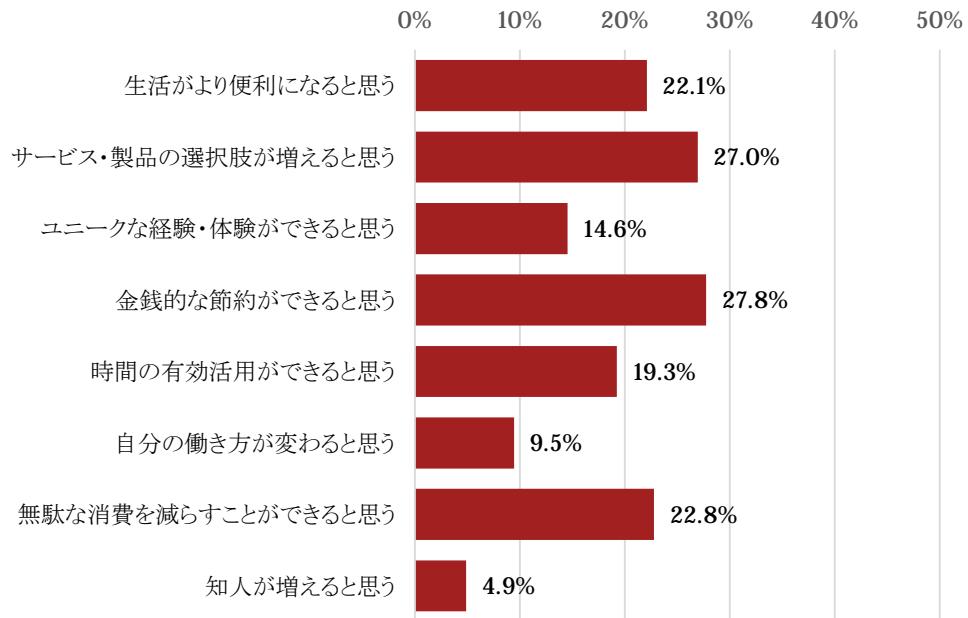
半数以上の回答者が「シェアリングエコノミーの発展は自分自身に影響があると思う」と回答。その内容は、「サービス・製品の選択肢が増える」「金銭的な節約ができる」など実益面に関わる点を認識。

Q. 「シェアリングエコノミー」の発展がご自身に与える影響はあると思いますか。あてはまるものをお知らせください。

「シェアリングエコノミー」の自分自身への影響
(n=2,000)



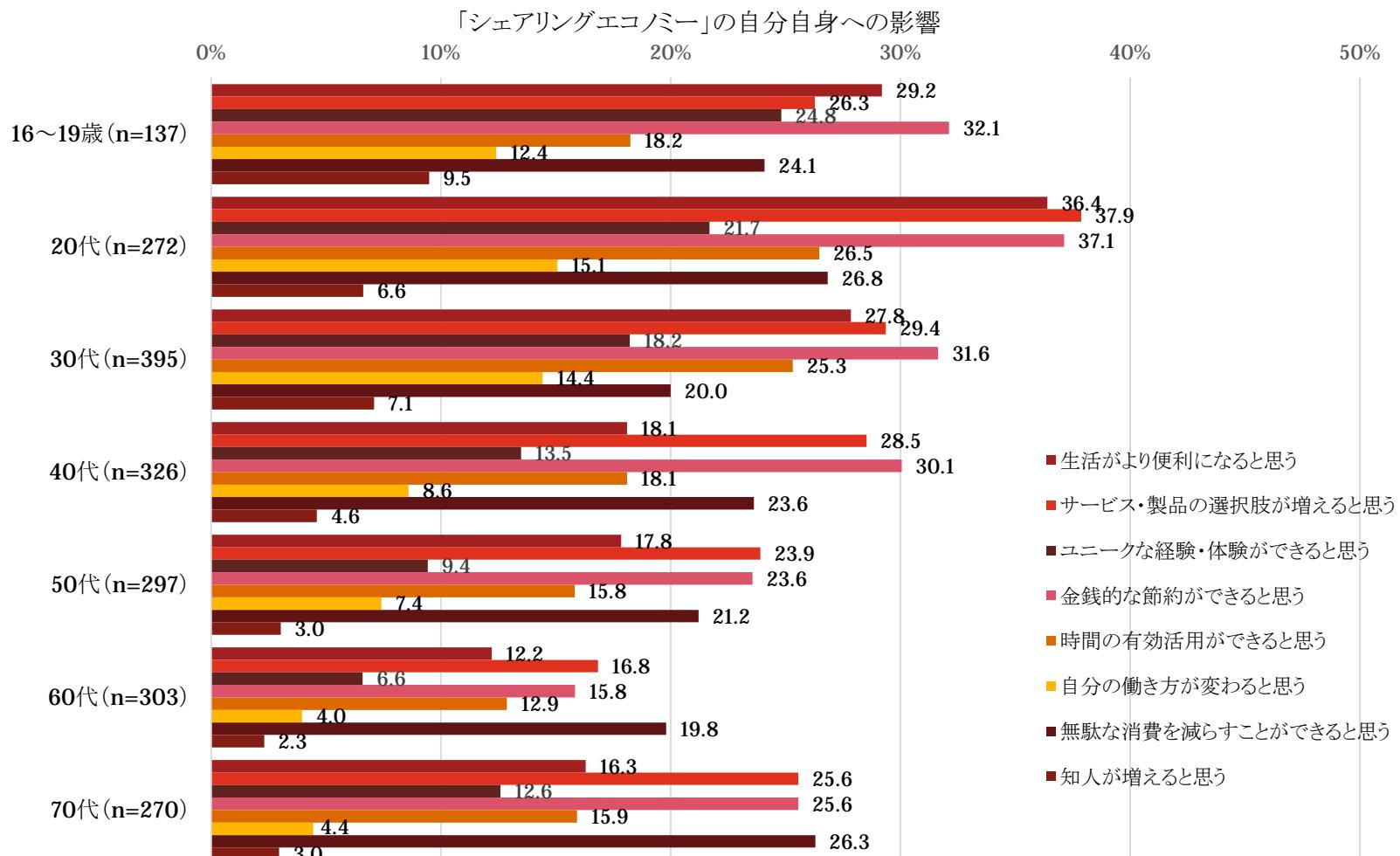
「シェアリングエコノミー」の自分自身への影響
(n=1,032)



3-2 「シェアリングエコノミー」の発展が自分自身に与える影響② 年代別(対象:全員)

「シェアリングエコノミー」の発展が自分自身に与える影響について聞くと、「生活がより便利になる」「サービス・製品の選択肢が増える」「金錢的な節約ができる」という点で最も影響を感じているのは20代。

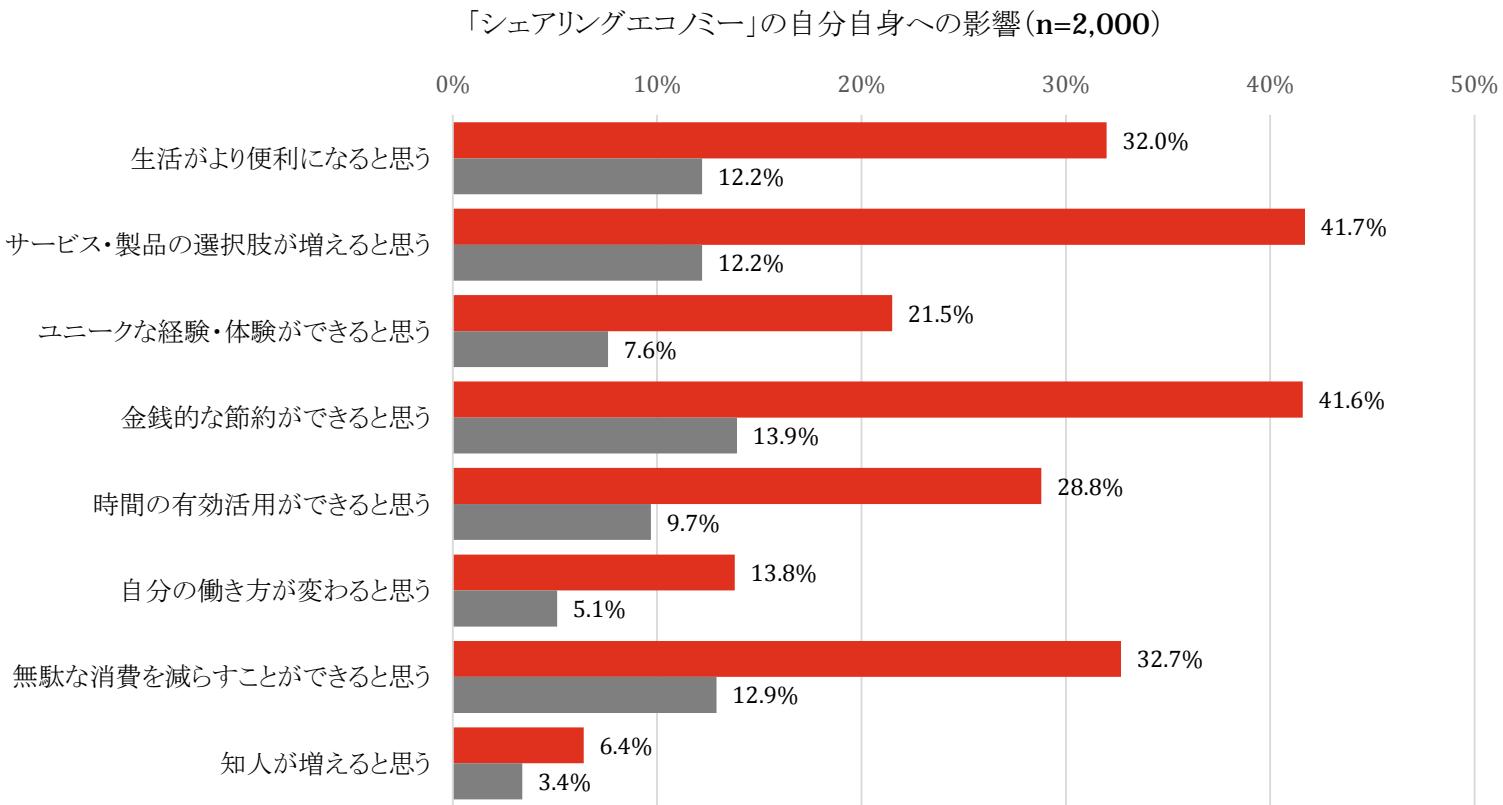
Q. 「シェアリングエコノミー」の発展がご自身に与える影響はあると思いますか。あてはまるものすべてお知らせください。



3-2 「シェアリングエコノミー」の発展が自分自身に与える影響③ シェアリングエコノミー認知者・非認知者別(対象:全員)

「シェアリングエコノミー」の認知者は、非認知者よりも「シェアリングエコノミー」の発展による自分自身への影響を認識。

Q. 「シェアリングエコノミー」の発展がご自身に与える影響はあると思いますか。あてはまるものすべてお知らせください。

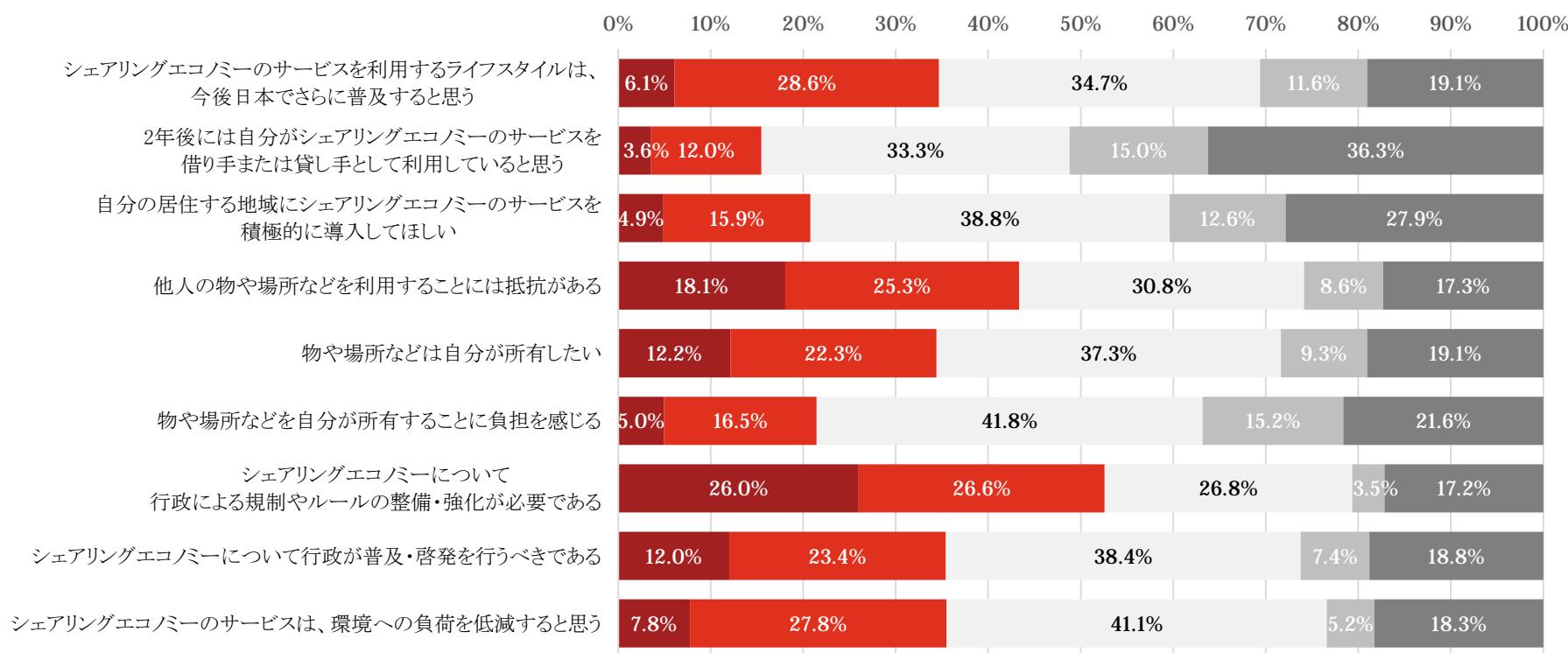


3-3 「シェアリングエコノミー」に関して感じること(対象:全員)

半数以上が「行政による規制やルールの整備・強化が必要」と回答(「あてはまる」「ややあてはまる」の合計)。また、前出3-2では半数以上が「シェアリングエコノミーの影響を認識している」と回答した一方で、「2年後には自分がシェアリングエコノミーのサービスを利用していると思う」のは、計15.6%。

Q. 「シェアリングエコノミー」について、ご自身が感じるお気持ちをお知らせください。

シェアリングエコノミーに関して感じること(n=2,000)



国内シェアリングエコノミーに関する意識調査 2017

お問い合わせ

PwCコンサルティング合同会社

野口功一

パートナー／グローバルイノベーションファクトリー リーダー

koichi.k.noguchi@pwc.com

西口英俊

グローバルイノベーションファクトリー ディレクター

hidetoshi.h.nishiguchi@pwc.com

渡辺真知子

グローバルイノベーションファクトリー シニアアソシエイト

machiko.watanabe@pwc.com

電話: 03-6250-1200(代表)

グローバルイノベーションファクトリーについて

PwCコンサルティング合同会社内の組織で、新規事業創出活性化のための専門チーム。

PwC Japanグループにおける従来のプロフェッショナルサービスとは異なる新規事業を開発しています。国内外のスタートアップ、大企業のほか、大学、NPO、政府、自治体などとも連携し、AI、ブロックチェーン、ロボティクス、ドローンをはじめとする最新のテクノロジーを活用して新しいビジネスやサービスの創出を行っています。



© 2017 PwC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.